

遠州荒井の濱より、奥の山五里ばかり海となりて、大船も出入事むかしは山につまきたる陸地なりしが、中比山より、ほらの貝おびたゞしくぬけ出て海へ入ける、其跡かくのごとく海となりて、今切と名づくるよし、古老いひつたへたり、我國は伊弉諾、伊弉冊のうみ給ひ、大己貴、少彥名のつくられけるといへば、其むかしはいかゞ侍りけむ、もろこしの華山を、巨靈が擘開して水をやりける事も侍るにや、

一葉扁舟寄旅身 潮波通信遠州濱 海山何借巨靈手 我國元來造化神

相模國  
蘆湖

〔東遊行囊抄十三〕宮根湖水

此湖水長サ三里許、幅或ハ一里、或三十町、或ハ二十町許ノ所モアリ、北ノ方ニ湖水ニ落ル所ヲ海尻ト號ス、駿州之御厨ト云所ヨリ、荷物ヲ海尻エ上テ、小船ニ積テ峠ノ驛、并ニ元箱根ノ宿へ運送ス、

此湖ノ水底ニハ杉ノ大木多ク沈テアリ、何ノ代ニ沈ミケルヤラン、于今不朽シテ多ク在ト云々、稻葉美濃守正則小田原ノ城主タリシ時、此湖水ノ大杉一木ヲ引上テ、紹大寺ノ造營ノ用木トセラル、其幅一丈餘、杉板アリト里俗ノ説ナリ、

〔東海道名所圖會五〕宮根湖水 一名蘆の湖といふ、富士八湖の其一也、箱根の山嶺にあり、長サ三里許、巾一里餘、其中に左尾崎、右尾崎、三ツ石塔ケ島等の字あり、産物は鱒、腹赤也、鱒魚は山中の溪川に生ず、小兒五疳の妙藥に用ゆ、

〔東關紀行〕猶ゆきすぐるほどに、宮根の山にもつきにけり、岩がねたかくかさなりて、駒もなづむばかり也、山のなかにいたりて水うみ廣くたへり、箱根の湖となづく、又蘆の海といふもあり、權現垂跡のもとゐけだかくたふとし、朱樓紫殿の雲にかさなれる粧ひ、唐家驪山宮かとおどろかれ、巖室石龕の波にのぞめるかげ、錢塘の水心寺ともいひつべし、